

新聞をコミュニケーションツールとして使う手法を学んだセミナー。20日、福井新聞社・風の森ホール



記事選び 個性再発見

本社でセミナー 児童や教員 活用学ぶ



新聞を活用した教育方法を知らせてもらおうと、県NIE教育研究会は20日、本年度第3回NIEセミナーを福井新聞社・風の森ホールで開いた。小学生や教員ら16人が参加。新聞をコミュニケーションツールとして使い、記事を読む量を増やしニュースへの理解も深まる手法を学んだ。国語教育を専門にする関西

国際大教育学部の中西一彦教授(62)が、「親しき中にも新聞あり―新聞は親聞?―」と題し、講演とワークショップを行った。ワークショップでは2人1組となり、当日の新聞紙面からお気に入りの記事を探すとともに、相手が選ぶ記事予想した。

姉妹で参加した中野理咲子さん(社小6年)は、妹の優里奈さん(同4年)が「きれいな自然や風景が好きだから」と、「ハピリンが天空に浮かんだ記事を選ぶ」と予想見事的中させた。優里奈さんは「こんなたくさん記事を読んだのは初めて。季節に合った話題を多く見つけた」と楽しそうに話していた。中西教授は、新聞を通して友人や家族の新たな一面を発見できるとし、「『こんなことを思っているんだ』というの分かる。教室や家庭で実践してみしてほしい」と伝えた。

NIE実践指定校の福井市安居小の尾山和久教諭(30)は「新聞は一人で読むものだと思っていたので、コミュニケーションの手段になるというのが印象的だった。活用方法を授業に取り入れたい」と話していた。セミナーではこのほか、音読や書き写し、記事を題材にしたスピーチなどに加え、特定の動詞に関連する記事を紙面から探すという取り組みも紹介した。(大久保直輝)